

Turin's Tea Time



テュリンのティータイム

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。紅茶を飲みながらゴールデンウィークを楽しむ時期です。

さて、4月16日はイースターです。最近、日本の店でイースターグッズを少しだけ見かけて、びっくりしました。日本人の友達に聞くと「日本人は卵とうさぎのイメージが好きだから、イースターがだんだん人気になってきているけれど、イースターがどんなお祝いなのかはあまり分かっていない」と言っていました。

今回は、国によって違いがあるイースターのことを紹介します。



▲4月16日に催したイースター祭も大盛況でした

今日から使える

ひとこと英会話

Lesson18

甘いものが好きだと伝えるときに一言

"I have a sweet tooth"

読み方 「アイ ハヴァ スイート トゥス」

意味 「甘いものが好き」

sweetは「甘い」、toothは「1つの歯」という意味で、和訳すると「私は甘い歯がある」となります。

Sweet toothがある人にとって、イースターやハロウィンなどのお菓子がいっぱいあるイベントは、とても楽しみです。



▲甘いものが好きだからイースターが大好き

オーストラリアのイースター

チョコレートを食べる祝うイースター

キリストの復活と冬から春に変わる季節をお祝いする「イースター」では、子どもたちが卵とウサギの形をしたチョコレートをもろう習慣があります。中身の無い卵は、キリストが生き返り空っぽになった墓を表しています。ウサギは子どもをいっぱい生む動物なので、春と「新の命」のシンボルになっています。

イースターはキリスト教の人たちに限ったお祝いではありません。多くの人たちが、春のお祝いとしてイースターチョコレートを食べます。しかし、オーストラリアは秋なので、秋の収穫のお祝いになります。また、オーストラリアのスーパーでは、びっくりするほどたくさんのチョコレートが陳列棚に並びます。イースターの時期にチョコレートを一番多く買う国はオーストラリアだそうで、種類も豊富です。



▲スーパーの陳列棚にはチョコレートがぎっしり

謎を解きながらチョコレート探し

これは私の家族だけかもしれませんが、子どものころ両親は、チョコレートを家中に隠し、探すためのなぞなぞの問題を出していました。毎年チョコレートだけではなく、なぞなぞも楽しみにしていました。

オーストラリアとは関係が複雑なイースターバニー

イースターバニーとは、子どもたちに卵とウサギのチョコレートを届けるサンタさんのような存在です。しかし、オーストラリアとウサギの関係は複雑です。ウサギは自生の動物ではなく、1800年代にイギリスからきて繁殖しました。穴を掘って土地を侵食したり、先住の動物が何も食べられなくなるほど草などを食べたりするため、現在では害獣になっています。

オーストラリアならではのイースタービルビー

オーストラリアでは「イースターバニー」を「イースタービルビー」に変えようとしています。ビルビー(またはミミナガバンディクート)はウサギに似た動物で、ウサギより耳と鼻が長いです。砂漠に住んでいて、絶滅危惧種になっています。

オーストラリアでは、イースターの時期にビルビーのチョコレートも買えます。収益の一部はビルビーなどオーストラリアの動物を守る活動に使われます。

オーストラリアのスーパーでも、ビルビーよりウサギのチョコレートの方が多くイースターとウサギの関係は強いですが、将来、ビルビーのチョコレートが増えたらいいと思います。



▲ビルビーのチョコレート

※ページ内のイラストは、テュリンが描いています